

論 文 要 旨

学籍番号	81333344	氏 名	清奈帆美
論文題目： メタボリックシンドロームに対する効果的な保健指導のための健康診断分析モデル			
<p>近年、メタボリックシンドローム (MS) をはじめとした生活習慣病の予防に関し、個人の生活の質の維持に加え、社会保障費の抑制など社会的側面から重要視されている。2008 年には厚生労働省が特定健康診査による高リスク保持者に対して、特定保健指導を開始した。しかしながら、長年の生活習慣の変更は容易ではない。また、リスクは複数の生活習慣や生活背景が絡み合っていると考えられる。そこで、特定の職場において 5 年間の特定健康診査の結果及び同時に採取した検査データ、厚生労働省による特定健康診査における標準的な質問票への回答内容、年齢、性別、職場異動のデータからメタボリックシンドロームになるにはどういった因子が関わっているのか、予防のためにはどんな因子を改善すべきか調査したので報告する。</p> <p>MS の 5 年間の経過の推移より一度も MS にならなかった「メタボなし群」、一度以上メ MS になったが最終的に MS でなくなった「メタボ脱出群」、MS に新たにになった「メタボ新入群」、MS を脱出したが再び MS になった「メタボリバウンド群」、5 年間 MS だった「メタボ継続群」とし、生活習慣の違いや検査値の与える影響を統計解析した。χ² 検定では食事速度が速い者がメタボ継続群で他群に比較して多かった。メタボ脱出群では 5 年間の間に運動を始めた者が多かった(p<0.05)。</p> <p>対象者が MS を脱出するための生活習慣を改善することを提示する目的でベイジアンネットワーク (BN) を作成した。BN は MS を直接構成する血圧、腹囲、血糖値、血中脂質の検査ノード、食習慣、運動習慣等の検査ノードに影響を与える生活習慣ノードと職場異動等の健康と関係ないノードの階層構造になっていた。生活習慣の変化が MS に与える影響を、対象者に提示するツールを作成した。週 3 回以上の朝食欠食習慣があると MS を構成する血糖値が翌年に悪化する確率が高まる。歩行速度が速いと翌年中性脂肪と肥満度が改善する確率が高まった。本研究で開発した BN の使用により、対象者と指導者は生活習慣の変更が与える確率的影響を確認することが出来る。今後は本研究で作成した BN の使用により対象者に合わせた具体的な保健指導を行えるようになり、対象者にとって生活習慣改善が行いやすくなることが推測される。</p> <p>今後、本研究の成果を実際に保健指導に使用し、対象者の生活習慣改善に効果を確認するとともに、さらに精度のよいモデルを開発する。</p>			
キーワード (5 語)			
メタボリックシンドローム 統計解析 ベイジアンネットワーク 生活習慣病 保健指導			